

⑦ 帝室技芸員

本年十月、皇室の保護により美術家を優遇するという趣旨に基づいて帝室技芸員制度が定められ、帝国博物館がその運営に当たることとなった。同館総長九鬼隆一が技芸員撰択委員長となり、佐野常民、浜尾新、前田正名、川田剛、山高信離らが撰択委員となって橋本雅邦、狩野永恵、森寛斎、守住貫魚、田崎草雲、高村光雲、石川光明、加納夏雄、柴田是真、伊達弥助ら一〇名を撰出。うち四名は本校教員である。技芸員には左記のような命令書（前田香雪著『後素談叢』巻一より）が下され、また、年俸百円が支給された。

命令書

第一 帝室技芸員は本邦美術を奨励する為め古を徴し今を稽へ工芸技術を練磨し後進を誘導するを旨とすべし

第二 技芸員は其志操を高潔にし其体面を損ずる如き挙動あるべからず

第三 技芸員は宮内省より特に製作を命ぜらるゝことあるべし但其製作に対しては相当の報酬を支給するものとす

第四 技芸員は毎年兩度若くは其工芸技術上に関する事項に就き帝国博物館総長より諮問を受け若くは報告を命ぜらるゝ時は之に応答し若くは報告書を出すべし但報告書の方案は総長之を指示す

第五 帝国博物館総長は技芸員の業務素行を監督し随時技芸員の製作物を臨検し又は製作品を檢視することあるべし

右の條項宮内大臣の達により命令す

帝国博物館総長

⑧ 第三回内国勸業博覧会

開校より一年余りたった二十三年四月一日、上野公園で第三回内国勸業博覧会が開幕した。審査官長は九鬼隆一。本校からは岡倉寛三をはじめとして高村光雲、橋本雅邦、川端玉章、黒川真頼ら教官が審査官に加わった。岡倉は審査報告の執筆も担当している。美術部門は龍池会路線が九鬼・岡倉路線に取って替られ、特に左記のような本校教官たちの力作が出品されたことにより面目を一新した。

秋景山水図（白雲紅樹）一等妙技賞 橋本雅邦

素銅彫蘭陵王置物右同 海野勝珉

銀製百鶴彫花瓶右同 加納夏雄

秋野鹿図二等妙技賞 巨勢小石

墨堤桜花図（墨堤春曉）右同 川端玉章

牙彫加茂長明像右同 石川光明

木彫神武天皇立像右同 竹内久一

木製秋鹿彫屏風右同 石川光明

神功皇后洗髮図三等妙技賞 結城正明

木彫大塔宮（護良親王）乗馬像右同 山田鬼斎

木彫馬置物右同 後藤貞行

蒔絵香盆山水図右同 白山松哉

臚銀鴨菓子器右同 岡崎雪声

（同博覧会事務局編『内国勸業博覧会褒賞授与人名録』による。）